

呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）のリニューアルに向けた検討内容の報告について

令和元年度から開始した呉市海事歴史科学館（以下「大和ミュージアム」といいます。）のリニューアルに向けた調査・検討について、令和2年度に検討した内容等について、次のとおり報告します。

1 主旨

呉市は、明治22（1889）年に呉鎮守府が開庁し、明治36（1903）年には呉海軍工廠が設置され、戦前においては、戦艦「大和」を建造した東洋一の軍港、日本一の海軍工廠、世界でも有数の海軍・航空機関連産業が集積したまちとして栄えてきました。また、戦後においては、戦前から培われてきた技術が新しい技術と結び付き、世界最大のタンカーを数多く建造する有数の臨海工業都市として発展し、我が国が戦後約10年で世界一の造船国へと発展する一翼を担ってきました。

大和ミュージアムは、こうした明治以降の日本の近代化の歴史そのものである「呉の歴史」と、その近代化の礎となった造船・製鋼・航空機を始めとした各種の「科学技術」を先人の努力や当時の生活・文化に触れながら紹介することにより、我が国の歴史と平和の大切さを認識していただくとともに、科学技術創造立国を目指す日本の将来を担う子どもたちに科学技術の素晴らしさを伝え、未来に夢と希望を抱けるような「呉らしい博物館」とすることにより、地域の教育、文化及び観光等に大きく寄与することを目的として、平成17（2005）年4月に開館しました。

館内には、零式艦上戦闘機六二型などの貴重な実物資料のほか、船を中心とした科学技術の原理を体験・体感を通して分かりやすく紹介している展示室があり、毎週土日にはワークショップやサイエンスショーを開催しています。

現在、開館以来の総来館者数が1,400万人を超え、平成30年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染拡大が続く中にお

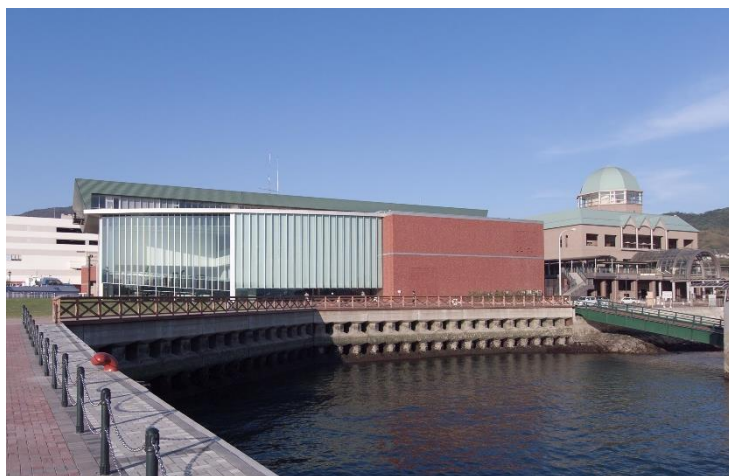
いても、県内外から多くの方に来館していただいている呉市最大の集客施設となっています。

一方で、当初の想定を上回る来館者数に起因して、施設・設備に過剰な負担が掛かっているにもかかわらず、これまで大規模なリニューアルを実施していないことなどから、施設内外に経年劣化などの様々な課題が生じています。

加えて、開館以来、大規模な展示更新をしていないことから、来館者層の変化への対応や最近の調査研究の成果、最新の情報が反映されていないなどの課題があり、展示の手法や内容の充実、デジタル化等についても検討する必要があります。

近年、呉市の産業構造にも変化が見られ、半導体製造装置や計測器のような精密機械、自動車・航空機部品の製造、発電設備や環境設備などの製造業が、旧海軍工廠から続く技術などを元にして伸びてきています。

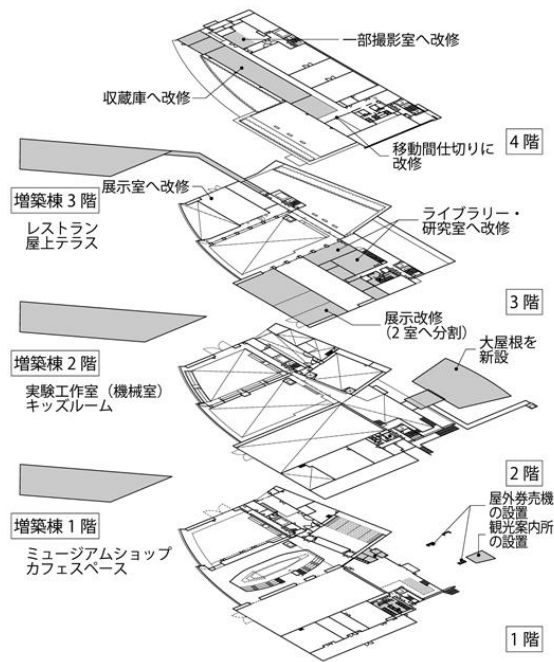
このような呉市の産業構造の変化とともに、呉駅周辺の再開発や青山クラブの活用など、当館を取り巻く環境の変化も勘案しながら、更に魅力的な施設となるよう、リニューアルに向けた施設及び展示の今後の在り方や事業手法等について、令和元年度から調査・検討に取り組んでいます。



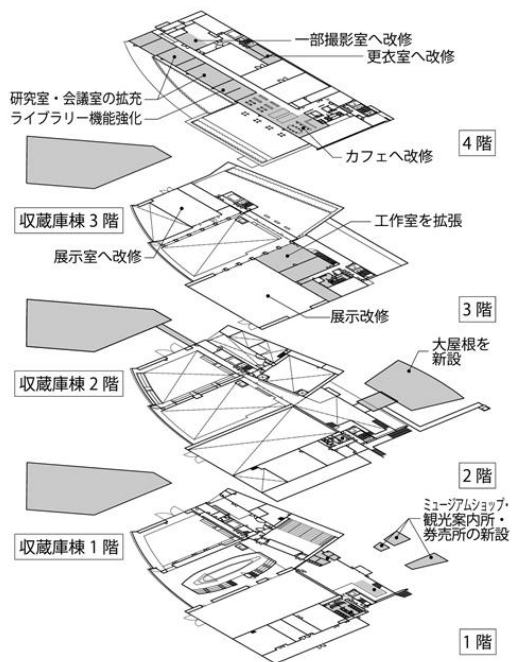
2 基礎調査及び検討案の内容（令和元年度）

令和元年度の調査・検討において、リニューアルの基本方針を「観光振興への貢献」、「博物館機能の強化」、「アメニティの向上」と定め、それぞれに重点を置いた次の三つのリニューアル検討案（A案～C案）を作成しました。

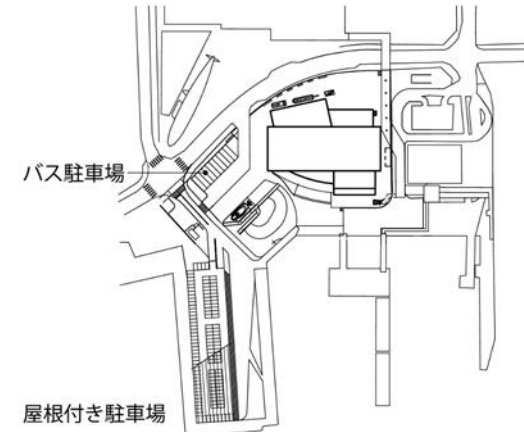
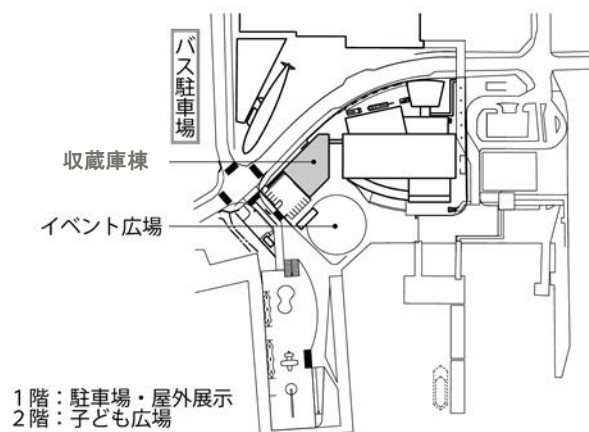
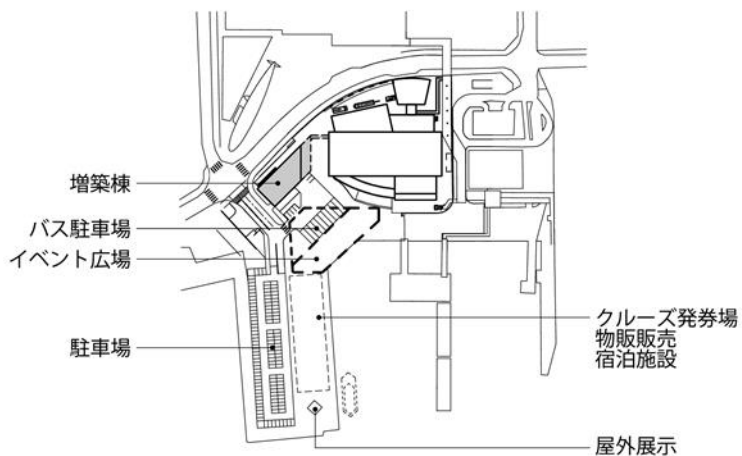
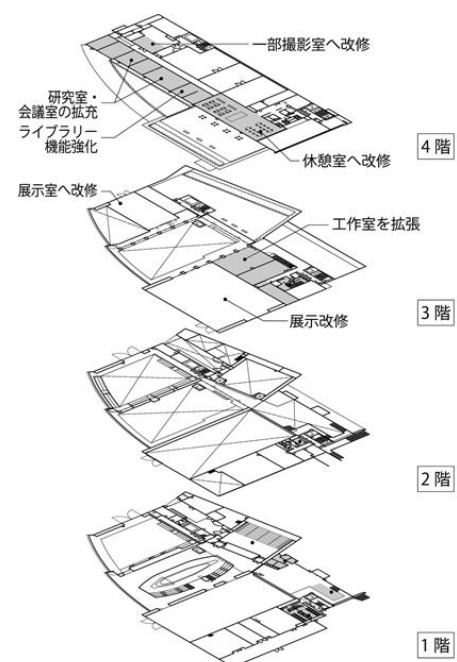
A 案 観光機能重視型



B 案 博物館機能重視型



C 案 館内リニューアル型



3 令和2年度の検討体制

令和元年度に実施した基礎調査及び三つの検討案を基に、令和2年度は、外部有識者の専門的な見地に基づいて検討を進め、より具体的なリニューアルの方向性について検討を行いました。

(1) 呉市海事歴史科学館リニューアル外部検討委員

職 名	氏 名	分 野
NHK広島放送局 副局長	相川 恵祐	報道・広報
映画監督・呉市史編さん委員会委員	片渕 須直	映画制作・地域史
呉工業高等専門学校環境都市工学分野教授	神田 佑亮	交通
中国運輸局 観光部長	九鬼 令和	観光
株式会社YMF G ZONEプランニング 代表取締役社長	藏重 嘉伸	エリアマネジメント
呉市顧問（情報政策アドバイザー）	郡山 龍	I C T
広島大学文書館 館長 学術院（大学院教育学研究科）教授	鈴木 理恵	資料管理
広島国際大学 客員教授	千田 武志	郷土史
広島国際大学健康科学部 教授	寺重 隆視	技術史・機械
岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 前副館長	長浦 淳公	博物館実務
東京大学名誉教授	大和 裕幸	船舶・航空技術

(2) 会議の開催状況

ア 第1回会議

【開催日】令和2年 8月30日

【議事概要】令和元年度の基礎調査及び検討案の説明

ウ 第3回会議

【開催日】令和2年12月24日

【議事概要】リニューアル案検討等

イ 第2回会議

【開催日】令和2年10月23日

【議事概要】リニューアル案検討等

エ 第4回会議

【開催日】令和3年 3月29日

【議事概要】令和2年度の検討結果の取りまとめ等

4 検討内容

各項目の検討結果等については、次のとおりです。

(1) エントランス周辺

現状	<ul style="list-style-type: none"> 券売機に行列が出来ることが多く、ミュージアムショップにも人が集まり、混雑が常態化している。 屋内での団体客の待機が困難である。
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムショップや券売機を館外へ出すことで、エントランス内に空間を確保する。 大屋根を設置し、その下を入館前の待機場所として利用するなど、来館者の利便性を向上させる。
今後の検討事項	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュレス対応等をにらみ、入退場ゲートの設置等を検討する。 屋根のデザインや素材、建築基準法等との適合などを検討する。

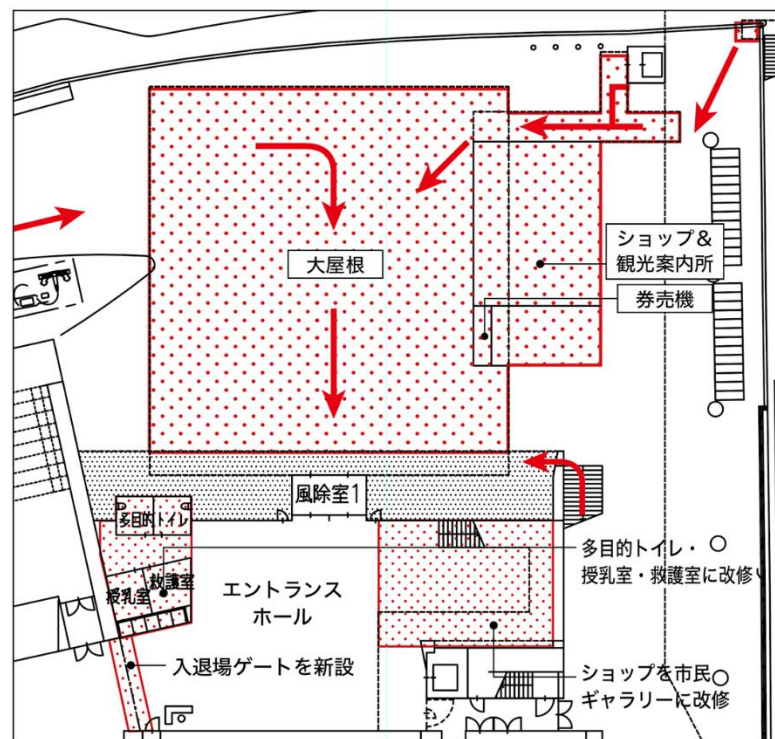



イメージ図(正面から)



イメージ図(正面西側から)

【エントランス周辺配置案】

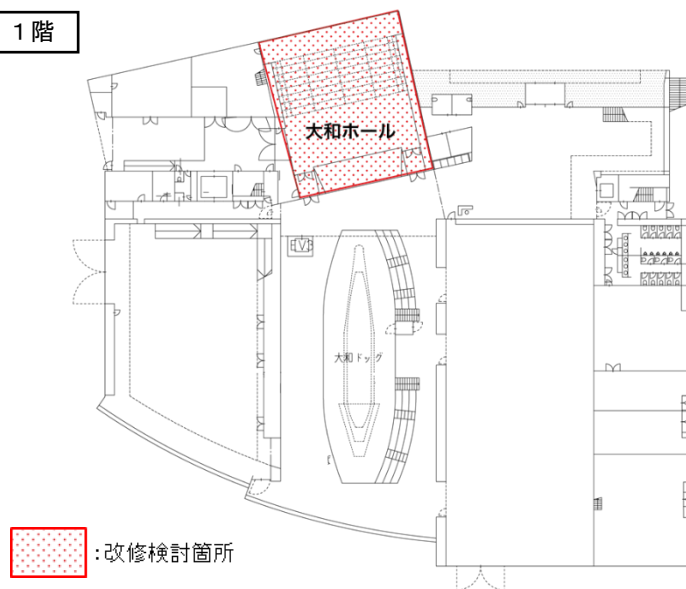


 :改修検討箇所

(2) 大和ホール

現状	・年間を通じて企画展を開催している。
検討結果	・企画展示室を別に整備し、ホールは呉の歴史を説明するガイダンスルームやイベント会場、ユニークベニユーの対応等に活用する。
今後の検討事項	・具体的な活用方法を検討し、それぞれの課題等を整理する。

1階



ガイダンスシアタールーム

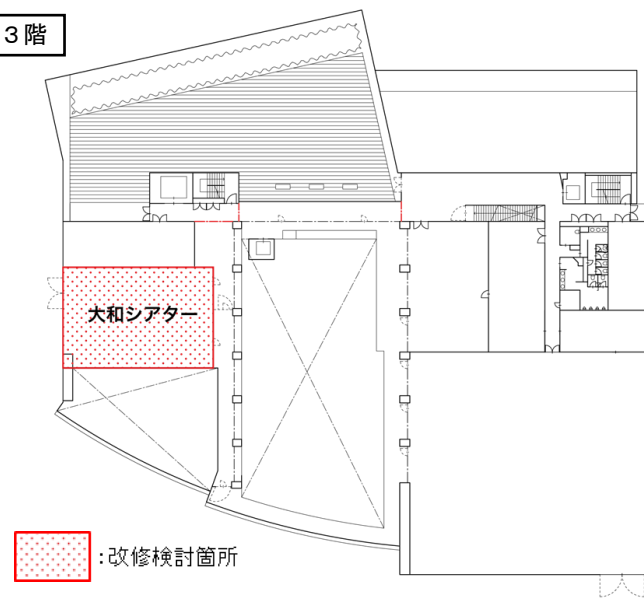


ユニークベニユー

(3) 大和シアター

現状	・上映コンテンツが更新されておらず、利用者が低迷している。
検討結果	・企画展示室に改修する。
今後の検討事項	・3階に移転する企画展示室への来館者の導線などを検討する。

3階

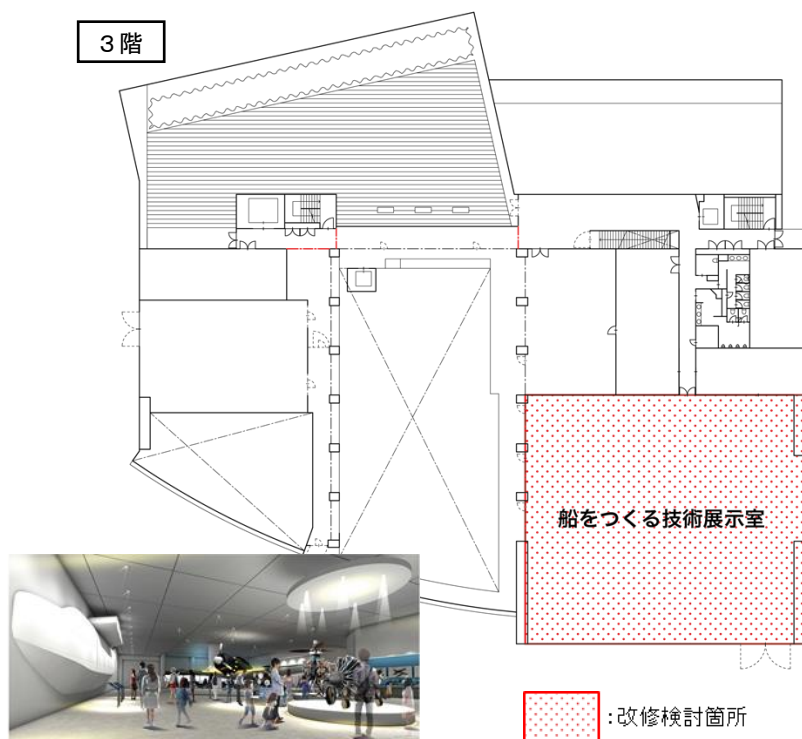


第27回企画展 海底に眠る軍艦

(4) 船をつくる技術展示室

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・操船シミュレーターや浮力を感じる装置など、船をつくる技術を学べる体験装置等が設置されているが、利用者が来館者の4割程度に留まっている。
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで紹介されていない航空機等の展示を追加し、内容の充実を図る。
今後の検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の展示のバランスを図り、展示内容を精査するとともに、体験装置の再配置なども検討する。

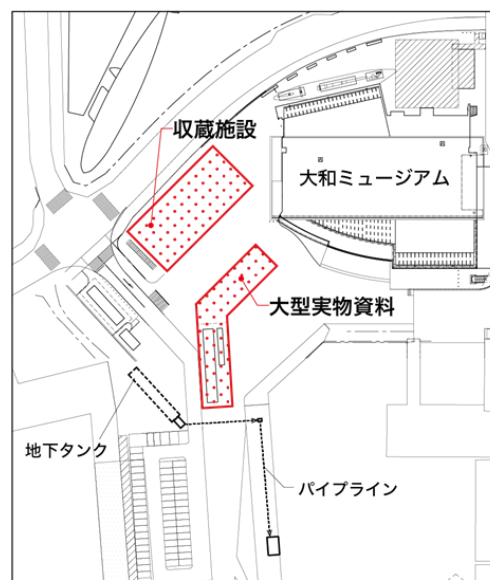
3階



展示室イメージ図

(5) 収蔵施設

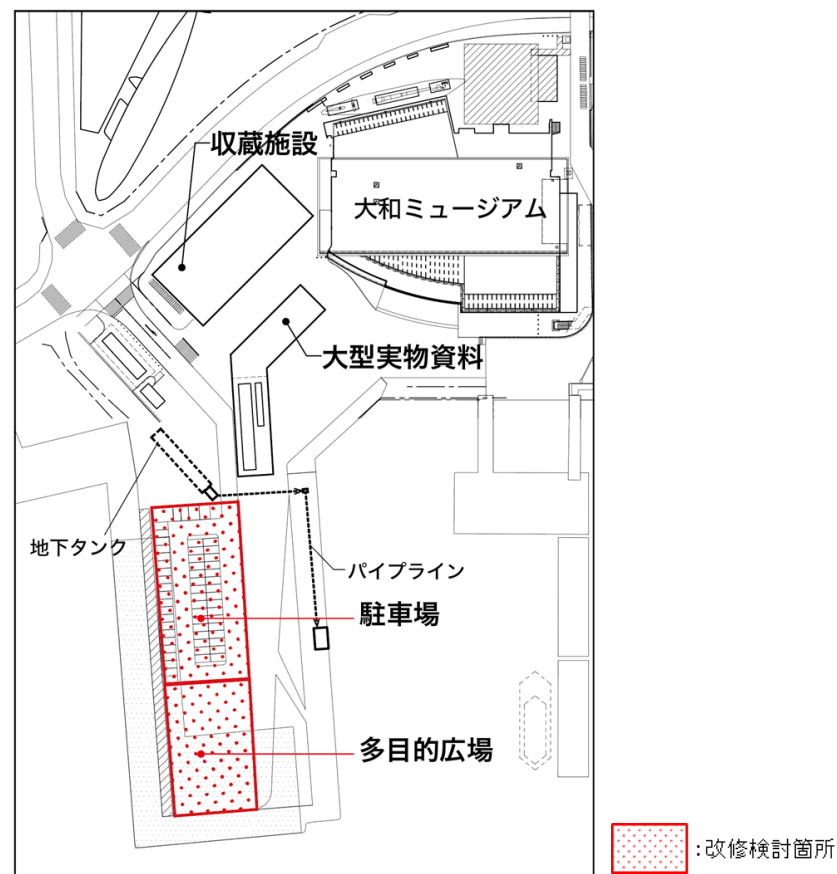
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・大和ミュージアムが所蔵する資料を、築地町にある倉庫や旧大冠中学校建物に分散して収蔵している。
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、駐車場として使用している場所に所蔵資料を集約し、保存・研究するための収蔵施設を整備する。
今後の検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の詳細を再整理し、整備内容や建設規模、構造、展望デッキなども含めた全体の景観などを精査する。 ・大型資料の屋外展示方法等を検討する。



収蔵施設配置イメージ図

(6) 屋外（大和波止場・港湾緑地・埠頭用地ほか）

<p>現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大和波止場東側は、港湾緑地としてイベントなどで活用している。 ・大和波止場の西側は、埠頭用地として、荷揚げ作業や資材置き場として使用している。
<p>検討結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵施設の建設に伴い、駐車場を大和波止場西側へ移設する。 ・駐車場を整備する場所の先端の部分については、多目的広場として整備する。
<p>今後の検討事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大和波止場全体の再整備（〔例〕実物大戦艦「大和」4分の1を2分の1へ拡張）と合わせて、多目的広場の具体的な活用策等を検討する。 ・再整備に当たり、港湾管理者と船舶給油用地下タンクとパイプラインの扱いや土地利用について協議する。 ・埠頭用地や資材置き場のほか、周辺の前提条件が変わる可能性があり、その状況を見ながら、引き続き配置等を検討する。 ・回遊性のことも考慮しながら、収蔵施設や駐車場等の配置を敷地外も含めて検討する。



※周辺の状況の変化に応じて、検討結果も変わります。



活用例：飲食販売（キッチンカー）



活用例：フリーマーケット

(7) 館内設備改修・新設

現状	・小規模改修を実施しているが、空調設備等が経年劣化し、故障する可能性がある。
検討結果	・改修が必要な設備等については、計画的に改修・更新，新設を行う。
今後の検討事項	・改修に必要な現状調査を行い，整備内容の詳細を検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・大和ミュージアムを中心とした中央エリアの中で、飲食やお土産物の在り方や駐車場のマネジメントなどを引き続き検討していく。 ・回遊性のことも考慮しながら、収蔵施設や駐車場等の配置を敷地外も含めて検討する。（再掲）
--	--

(8) 回遊性・機能分担

現状	・大和ミュージアムに来館される方の市内回遊率や宿泊する割合が低い。
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊性を高めるには、大和ミュージアム以外の場所に飲食施設やお土産品販売の場を増やして、それらを結ぶための自動運転車やグリーンスローモビリティなどの移動手段を確保することが有効である。 ・回遊性については、大和ミュージアム単体で考えるのではなく、呉市全体で連携を考えていく必要がある。
今後の検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・呉駅周辺再開発など、周辺の整備計画との整合を図りながら検討する。 ・青山クラブについては、海軍下士官集会所等であった歴史的背景を踏まえ、大和ミュージアムの一部機能の分担について検討する。



呉駅周辺地域全景イメージ

「呉駅周辺地域総合開発基本計画」より引用



青山クラブ

5 今後の流れ

令和3年度からは、基本計画を策定するために新たに委員会を立ち上げて検討に入ります。

なお、今後は、呉港の臨海工業地帯全体が大きく変化する可能性があることから、大和ミュージアムのリニューアル検討についても、それらの状況を踏まえながら、柔軟な対応が必要であると考えています。

(1) 基本計画における検討事項

ア 建築計画

改修及び増築、外構整備に関する意匠・整備・構造計画等について検討します。

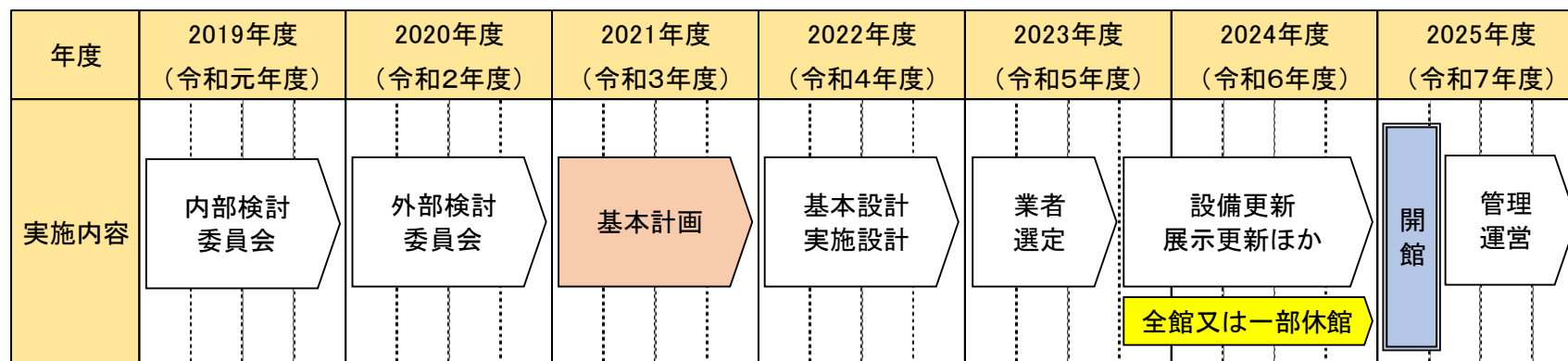
イ 展示・資料活用計画

展示ストーリー、全体構成、手法等について検討します。あわせて、資料の収蔵・管理の方針やデジタル化等の活用策について検討します。

ウ 事業計画

整備費の概算を算出するとともに、リニューアル後の収支シミュレーションについて検討します。あわせて、国等の補助事業の活用やPFIなどの事業手法についても検討します。

(2) 全体スケジュール（予定）



※PFI事業として実施する場合は、導入可能性調査等を行う必要があるため、開館時期が遅くなる可能性があります。